2017

2017年11月18日

国労鹿児島地区本部 部 鹿児島市武1丁目17-24 吉嶺ビル403号

099 - 254 - 0266

29 1 日 口 武 定 期 公 民 会を1 館 で 開 0

進め 論し 要員 ただき、 員 闘 \mathcal{O} \mathcal{O} 5 場 木 5 廃 削 を 後 副 ンマ が が を 中 計 で 画 化 4 真摯 「さ れ きば 両 きり 頂 ホ きた て に 7 Þ 年 議 が VI 11 A 7 ら方

之薗 を進めた。 はじめ 議長 組 合員 の挨拶で開会した。 を 鹿 児島分会の 進 行 原

皆様から連 その 帯の挨拶を 後 来 村 の 委 5 名 長 \mathcal{O} \mathcal{O} 議長の原之園組合員 結

会挨拶の後、 んで行きましょ 団 承 小 財 結 木副 認 政に 委員長 さ ガ 委員 れた。 題 ついては、 から 組 \mathcal{O} 原村委員 解 合員 口 長 う。 1 \mathcal{O} が で 向け 一今致総 長 と閉 尚 進 寸 疑財



がされ 書記 き、 長 最後に・ から挨拶と問 九 州 本 一部岩 題 提

*

鹿児島乗務センタ

駐

職場環境につい

場の確保をしてほ

す

起 元

開するとき が、個数が大事。 とが大事。 考えて良い 組 ス等を集約 するときであ 状況を考えて、 する事 · 参 す 括 進 目的を持 ため 加 ま 何 も考え てな故 L 7 行い出 動 か来 ば流イ る 宣 を な 必 等 すべ 展もい

* 求若若 組 をす 強 不 が 労働 話 満 きであ らない 要を財 拡大につい もでてきて 組 合と違 邁進する る。

中

が 0 情 が

後全体で承認され

針提案が

過

 \mathcal{O}

後黒

副

員 書

*

記 長

疑から

長か

回定期総会 鹿児島地区本部

される大森市議

*

玉

* 共 鹿児島 事業

た。

頑張

ŋ

ぬ

事

を確認

親睦

を深 は、

8 交流

今後

ŧ

後

*

*

社 民党鹿児 議 大森

九 州 労金 支店長 鹿児島南支店 勝

務局 退 職 者 の会鹿 児島 准 地 連

*

労 2 • 1 孫 藤崎 久

ま 心してこない。 いる区 間 害も多く が る。 である。 あり安 常 「きり 反対を 発 ば 行 ま

全生た案



発言する松岡組合員

礼につこ中ご導労 様会域 を行開 て一まげ私を、けのに来を運さににでこさ委催第で地 倍で点す。 `は申こて台も賓い動ら心結国のせ員に1す区 近す。は 。ご、しのい風かのたのによ集労一て会あ回 挨3上場たのか皆だ前、りさ運年いをた定 は 拶点げをだ中わ様い進長敬れ動間た代り期 ににまおき、らにてに年意たを、だ表、地 執 行 政 テ し絞すかま激ずはお向にを組担職きし地区たつ。りし励、、りけわ表合い場ま、区本 委 口 状 昌 等 したにそごまてたし員、ですご本部 てこ駆し多すごりまの今、。挨部総 御とけて忙、指国す皆総地 拶執会 いて 長 況 進 と申 に \mathcal{O} 備 思し 原





た2をた党望な「民を な議議2が日に さ明大 、 」れに 率突者議7 を正補 さ立院委罰罪 を獲結にのど排進代選り院院8 に応野れす臣陸森たわ7はきが会月こせさ本員法 得和の地 るさ内区 .得果分党に除党表挙ま選を日よ内じ党たべの自友衆た月急付 `選2のませ会会改を し、裂、よののとはし挙解のう閣るのまき不の・参り2落け自挙日よし、議の正新、与し無り論合す、たが散臨や改こ臨ま様規日加予閉4して民でにうた7に採案設衆党、所、理流る小。行し時く造と時で々則報計算会、ま安党は行な。月て決をす 事ん、本 はは4部 る 結衆党、所、理流る小 出残区の 果議が野属民一問希池 `国開を無国しな発デ学委中2し倍政 `わ動 来念社推 わ 1強を6る れ第会催行く会た問言 | 園員審5た政治多れきる4冒しい、開。題な夕一会査の。権にくたに まな民薦 と院3党、進「題望東 1 行経月組 せが党し なの1が立党踏にの京 日採ず1織 がど問問でが2放、題題も行日 こ8頭たま8催と回に9し月要 に決に5犯 んらのた り33林憲はみお党都 のNの東対 ま分議立民、絵けへ知 で議野 2 支口有京し 施・参日罪 し席呂候 しの席し主希しるの事 に衆衆月た3求 置説 ¢, わ間 持を権都て 行成議に処

海担屋 て県権思設設 事る2名めプ際0まへ間高 な動大べてと たしを7は区 し を内た 兵軽基まい民のいのや高故事オ護 タ大4しリ基江今りに衆てあが今訳て獲54に小上組破博が 海担屋 と縄は要闘しけ沖のッい年 瀬1た3日で墜3 かし市とすがせ的し2 に得自民 イしの自でいてる縄新ドまの墜で3のD は落大米縄がて基衛。を、安県基基。よ落M日をへ沖、炎型軍県 な、民無が強んにた1議ので 御し民主 け改とく、ま 信が8席得 礼ま党党 参、地隊。進沖倍民地地 うしVにはリ縄2上輸普東 れ憲共 `決る 任 `議で票選 をし候の 加米負鹿 め縄政の建建 にす2はじコ国0し送天村 ば策にすしこ し決席は率挙 申た補川

ま旧ま `りクて一道山 `れ 行を線響 いど月では山 地訳と行及下いす たま すいにたは県 域でしっし分しる青輪でますをす地替シも部を線不て一を見してさま、川は橋線こ °を心°5で °求°元え」らを復の通い刻行合臼よらす多橋一桁のの 住はてたて離と為柳送明た 申か被名死 "数り光の「台 め私とるなう沿旧一にまもつわ杵りにてた協案どこ線さ部なす早てせか、、 民あのとい方いに社密ら しら害の者 のよ岡損添風 上のに大3 とり責はま式つ出長度か7 げごあ災6 線う「傷田に 共ま任いすのてしはをに月 行ち議ものと自せ区つがいいとら日台 にせがえ。可いた 「公し3 鉄ん無 、株能まわ路表て1 きはす選輸や治る間て `復まな佐豊風 路が日等∫よ た冥わ害名 `る択送 `体たにい」旧すり伯本1 `夜り 災流田 い福れに "、間線8 害失一久明 い鉄と肢手バにめ関るRが 道 く公式性すけ線しい日 ととたな行 な共上にがでをまな と道しと段ス負費し日九求 がす間大口日 思お皆り方 \mathcal{O} バは、号 つ交場も、は廃しかこ 思のてしにや担用、田州め 出るの本間田 ス運上の 維 い見様ま不 た通を言上な止たつれ い復いて切タしの鉄彦はら 代転下影 てな花線で彦 ま舞方し明

非す明組 を撃会 来の場団し厳でて結」ず功6組 過 い 必施と員ン「行り」 まに常るら織し維を社まま、復組たしはき合と、さ回織1し分て三要策しの運特しんでませ全に組か実か持受のたし終帰合がい2まし、職せ地攻9ま割でつがにてさ転急、」はたん力厳合な態ししけ中、た結は員、困4し、J場、方撃8し民あ目あはいらやき次の日、。をし員よは鹿てなでJ。を叶のJ難年た今R復「本を7た営りはり断まな、り期ワ豊3 挙いがう、児きが、R むわ団Rなに。日組帰採部打年。かま、ま固する新しダン線月 げなり、児きが、R むわ団Rなに。日組帰採部打年。かま、ま固する新しダン線月 げなり、児きが、R むわ団Rなに。日組帰採部打年。かま、ま固する新しダン線月 げなり、児きが、R むか結組闘も採ま合を用臨ち2 らす組す反。削幹まイマのダーなける。 を話 す非す明組 得役今 る活一 日動度 常や、職の、職 かな結組闘も採ま合を用臨ち2えかの合いわ用で員目差時破月 状増に総島まら様組況え、会地し、々合 係仕場 。対安減線 ・ ヤン「イ わ事の にて年資区た国な員あい々料本。労差は るっ力員でた差闘の指別大り2 事たで、ある別い闘すを会、2 りで中 し全もホの改運特ヤ 0拡 れ 年 大 て無行しり正転急 -をので ば 、闘り大問抜い闘許を第日 振信の りく退で部 組別 が 闘視おムンでをに改 な 出の職争ま変題いをいさ成4 経 り頼世 ま中職もの 織攻新 うのう要マは強ち正 ŋ 9

すた の * 九今皆鹿 * 州ごさ児 に闘主い本 い義を部ま 精なのはのず 力ど闘じ皆初 本紹ん島 的そいめさめ 部介大地 だの、にんに 書に変区 運他労、に 記あお本 動多基平反鹿 長ず疲部 さく法和原児 のかれの れの改と発島 岩り様組 て課悪民の地 元まで合 い題の主闘区 でしす員



た第闘け闘・組 のま取返 つ1すてい反織地奮すりり て回る、等原強区闘 °組、 の定決運の発化本を全み職 挨期意動諸、拡部お組を場 拶総をの課民大執願合行か と会申先題主 `行い員うら いのし頭の主反委しの必組 た開上に前義戦員まよ要織 し催げた進を・会すりが拡 まにてちに守平は 一あ大 層りの 奮向る和

でがや当つ道で鉄年をの開ホ事東末化のし に ま表 `人た星事に道3進現にテ業京跡を間11つ1すし4ま化に九題のや線交4田しらま第ビ8し よそ員る・業な以月め地向ルの・地進J年Oい点 うのが部Dのつ外期て法け開拡大でめRが月て目 か他か分&現てがのい人て業大阪の9九経2では ?にけにS状い6売ま設タ、 `で複月州過5あJ つらは列でま割上す立イア沖の合にはし日りR いれ多車すすを高。な・ジ縄マ施は事までま九 ててくなが。占で2どバア那ン設九業し株す州 はいのど 、次め見0多ンへ覇シ開大のた式 どま予光なにるる1角コのでョ発六多 ` 現 うす算のな鉄まと7化ク展のンや本角こ場 状

い強声。問そ見ル域の福まかし部成 で点すし答州点他要の通両代たはし3ル月でとのに。てえ本や代望問をワ議。様た3に3御に いる部課議を題守ン員鹿々。回お0礼対 挨ふ きべと題員含等るマか児な代定い日申し 拶れ たくしももめに上ンら島意議期てにし九 と九 さ州 い取て頂含発つでのは地見員大国第上州 とりもきめ言いの問日区がの会労3げ本 せ本 て部 ま多がてロ題豊本出皆を九博ま部 頂を えみそしくあの | `本部ささ開州多す。を き代 てをのたのり意力地線のれん催本偕

学がのい委 きどえい交でた習ら皆ま員今たなてか通国発そ さす会後いにいなを労言う も 地 ん の を 開とをまけ守とがい 含 域 の で 鹿 催考すすれるし出っ め 交 力 鹿 児 さえべしば闘ててた 取通添児島れてき、いいもっても できるいか共けを今でも 地と 九ま議闘な強後い みる頂区考州す論会い化 を為き本え本 し議とし地すう 強にな部て部 いな考て域のし

rて中 てうう日うシるたいま期大雨うすい域し輸 °いで株い」い田こしよ場てしに本でいるく、た送 すて中 ーよ場てしに本でいるく、た送ましき進は4 、う合はたつ線はっ声の沿が密たてりめ、両 な「式まとつ彦と い路上すのた山にどな `¬がいに線たがで線 `度 7 いしら大特 。見議線なれもゼ大、てつ路中多はで利を月ままれ分急 一線場 との時 解論にるがのロき日考いが発くなは用初にすにたかワ 解論にるかの自己は与いが先くなば用がに ががつと良。かな田えて寸生あい廃者めは 出始い思いバら災彦方は断しりか線のて路 明廃の もワらン 言止国 拡ン宮マ さまてうのス鉄害山が復さたまとに少公線れるも」か・道が線示旧れ九す不進な表ご しは会 大マ崎ン しン空に て検質 「とと夕をあにさの、州 °安んいしと よ運港つ い討疑 き思そしいク造っつれ時久豪そ視で地まの う転間い ましの

夫進は言駅ますれはシて 聞答はまけしがさ 配険す事 ま行な大ま繰に州で 行害デ今いし配しれ又不れ大置な °故重なめながをする他すョス香せしどやしり事はあ何い2すし い・ン後てて置たば本足ま会し職安が大のていあ中。とのベンマ椎んて安新た返業ダりはて点交事トもいいし。な来ししでな場全数イでいスり心今い駅て実ー線。い全幹。し部イまおで目 渉故は、るまて会いとてたもけにに多ンしくピまに後うにモ施ト・をにも重のすい社と違いが多れは必くシょJーし進も施つニさサ筑行対と大かがるはのうて、くばき要発デうRドため県策いタれポ豊っしよ事題と必発業残職のなちな生とかれて。て庁がて一管一本 て申り故間場毎要言務業場意りん要しト 州合 行所実はで理ト線 いし、・すの回なもをがに見まと員でやか入自イ。声、要あ行蔓要がせ人やい重 は理過く在施無管駅スに 大化去と地さ人理以テお なれ然ン を回員りな延員出んを危ま大 丈をに発のれ化さ外しい

。て 11 きた るよ線ワ合やヤすいあは ってり安 感りホン理区改 じもしマ化所正こもま全 1 لح が合ムンをのをの安す。安 考 し理の運行統行間全 え て化無転つ廃うJが なが人のて合たR第 7 送 り先化拡きをび九一 11

ま化

かすの きをで々 さし診診診で労たのか金た厳行て 伝強回このまる働上 内てま水中り取 いり。取4ま含、な九れてにす断、働健間らの。しつは労えく答の内しべ組場労容いし申1。り3れき組組点すめ今意州ま取係る時年時康ず提一9いて3働ま求とま容たき合し働にまた709組点ばっ合み目。取後見本しりる場にに間診っ案部月交き5条しめなまとがでと節協なす。号号月み目なて員には りもが部た扱時合医1と断とが改2渉ま項件たてり変な、あ対目約つが交の・1にはりいのつ組 組申出大。う間に学度すの要あ正2内し目改。いま更っ今る等ででて大渉交労2つ労までのつ組 組申出大。う間に学度すの要あ正2内し目改。いま更っ今る等ででて大渉交労2つ労まで、これでは、これでは、一方では光で低。 旨をつ適でる受求りに日容たを善の労い正あこ診を、つのとが挙要 提働て検るとに行国い勤な、げ求 案時は査がにつっ労へ務りこ交に 旨たしい在主文あ会ま厳報を条にて条んを。ななも張言る社すしで行件労で件会今いい不しにしも。いもっ改働あ改 とんで化 進れま中 思も、り拡 会今いい不しにしも 社後との都て変。株 めのしで て強たも `を健ついてが会・まれ渉つ 交出て善協り善 にもので合きえ労式 なと受受康いてきこ社賃しもをい ま分ま大 渉しき要約まの い化の様

しま・し州非員成い月 まをんじ織地 願進にて でするは、で力島ホをてき、号力 は、で力島ホをてき、号力 は、で力島ホをでき、そうで、 は、で力島ホをでき、 は、で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 で力島ホをできる。 め 今ます若鹿本宣もしま1若す設のめ部区九いめ積いま 。け生定長本州して極るたとか場 いの期会部本まい的5最をらの す目い 一分力 き声的議才部すくに0後お運中 たをになルと『運声代は願動心 たをになルと い聞組どグし 大労 非含区ム願れしの8つ 交組の 活め本ペいてた間2い 動を・国いをに とく合の、ま 用掲部しいが月号で もか6労しつ座 同けOでとす。 でと考 に大の今後 組合員 を載ニジまる ``にとは 考場員開全し おしユもすの若2な 願て | 開 °でい回っ1 えのの催分て て機皆を会も 参開を おを方え いしス設九是社作て1 い会さは組

く職 かて、職る限を す含 一の こ場職?い歯場の界見今べめい目先年とか場 る止にでをたのき5わ瞭ど齢 る止にでをたのき5わ瞭ど齢のめ国は感と職状名ゆ然う構 でが労なじき場況でるでな成 はあがい不に実です」すっを なりあで満若熊は、R 。て見 。一見 なりあで満若態は い権るしをい `あし採 た L で利からがしたかましがよってちせせ悲れ まうのとき、 \mathcal{O} うれそ?いは方ん観も かこ

V1\$

に拶に区を先が まで加 頑り す念が鹿闘州題 大申 でし成児う本やとて功島こ部問 にし 向訳

頑と終本表頭あ最張まおす数し 張さわ部明にり後りせ願 りせる第す立まにまんい

伙の労働条件改造

定期健康診断時における医学適性検査を受診する場 合の勤務の取扱いの見直し

定期健康診断時に医学適性検査を受診する場合につ いては、受診に係る時間を労働時間として取り扱う。 平成30年4月1日から実施

*この間乗務員は勤務外に受診していたが、労働時間として見直す ように要求をしてきたことが実現した。今後受診する時は、超勤 の申請をするようになります。

(医学適性検査実施の健康診断だけとなります。)

*

0

年

4

月

1

日

か

6

実

も挨裡地とも題 けあ しの

• 别

平たす勤婦 2013 日本 2013 日本

9は間所の

年別2ま認

1 居時で定

10月1日からで60㎞以上10月1日からで60㎞以上1

から実っつらまる。

つ0

い km

て未

も満

社通

が勤

認に

め要

会

• 積

平満育立

成と児保

9た理休

しを存

亩暇

とすど

するしようので、

使

の子に係る使用事由

るの

条見

件貨

L

を

3

歳

未

2

年

1

0

月

1

日

カコ

5

実

。多て くい のと 開考 催え をて おい 願ま いす

・社員と

な取扱いナー社員の

はのは

同様となる

新

同

病

1

員ナ

へと取扱いは同様となるナー社員の積立保存休

る

暇

 \mathcal{O}

社員と取ったナー

婚

休

- 戦・育児時間を有鈴- 社員の休暇の見直

真と取扱、一社員の世

扶養手当の

新

同

様となる

3 1 以 上 社員 雇 用 0 0 継 懲 退 燃続で支払う 退職慰労金の \mathcal{O} 種 類 う。金の \mathcal{O} 追 新 最高 加

3

0

0

0

0

0

円

パ支 出 1払ト 勤 ト額ナ 停 ナをし - 社員 関7社 を設 係0員 は00 け 0 結 る。恐戒 平0婚 成円祝 3にい 金 \mathcal{O} 見 直

兼 平独務 成身者 2 者に 9 へ対 年のす 1代る 0用帰 月証宅 1の自 日発由 か行席 特急券 代 用 証 \mathcal{O}

· 財 平対形 成象貯 3 に蓄 0パの 年 1 加 ト入 4 月ナ対 丨象 1 日社者 以員拡 降を大の追 5 実 新加 施 規 加 入受付 時 カコ 5

間を有給休暇とする 新